

旧後藤医院鵠沼分院と鵠沼の医療事情

八柳 修之

藤沢駅南口からの橋通りを歩いて 5~6 分の所に現在は鵠沼橋市民の家となっている国登録有形文化財の旧後藤医院鵠沼分院がある。道路面から高くなっているがスロープがあり脚の不自由な人でも訪れられるようになっている。内部は常時公開されていない。案内板には次のように書かれている。



昭和初期の鵠沼駅付近 無料画像

「この建物は昭和 8 年（1933）東京小石川駕籠町の後藤内科医院の鵠沼分院として建てられました。改修を経て平成 20 年（2008）2 月から市民の家として利用されていますが、平成 22 年に国登録有形文化財として登録され、平成 25 年に後藤家の親類の塩原芳雄氏が藤沢市に寄贈されました。設計者は不明ですが入母屋屋根、銅板瓦葺きの和風の要素と、上下窓の出窓、下見板張りの換気用越屋根などによる通気・温湿度調整設備など環境工学の要素も採り入れられています。内部は中廊下を挟んで六部屋が整然と配置され、当時の衛生設備の一部が現存するなど、戦前の医院建築の特徴を残す貴重な建物であることから国土の歴史的景観に寄与しているものとして登録されました。建築面積 174 m²。」

以上で終わったのでは面白くない。STAY HOME、時間はたっぷりあるので、後藤内科医院鵠沼分院が建てられた当時の鵠沼地区の医療事情について調べてみた。

鵠沼が別荘地として本格的に開発されたのは、明治 35 年（1902）、江ノ電、藤沢駅～片瀬（現江ノ島駅）が開通してからのことである。江ノ電鵠沼駅は別荘地の入口として利用されるようになった。ちなみに小田急江ノ島線の開通は昭和 4 年（1930）である。

大正年代末に藤沢で開業していた医師は 26 名、うち藤沢 14 名、鵠沼 3 名である。このほか、医院を持たず往診だけしていた医師がいた。その多くは医学校を出で試験に合格した医師である。前歴は軍医や衛生兵であったと推察される。医師登録番号 1 号は藤沢宿の平野友輔（安政 4 年生）である。昭和 15 年（1940）に藤沢町は藤沢市となり医師会は高座郡医師会より分離し、藤沢市医師会が設立された。会員数は 28 名、うち鵠沼に居住する医師は 8 名、その中に、副会長高松貞夫、理事富士山（ふじ たかし）、後藤医院の後藤秀兵の名も見られる。

東京小石川の後藤医院、院長後藤遼平の長男秀兵は東大卒業後、実家の医院で経験をつみ、昭和 8 年（1933）に鵠沼橋で開業した。秀兵は昭和 30 年代後半まで開院し昭和 46 年他界した。その後、親族が別荘として使っていたが、後藤は生涯独身であったため相続者がなく親族が市に寄贈したものである。

富士山、山はたかしと呼ぶ珍名、「現在の藤沢」（1936 年刊行）に藤沢珍名番付大関（最高位）にランクされているという。明治 27 年、石川県金沢生、四高、東大医学部卒、医博、医局在局中に健康のため、鵠沼海岸に移

り研究の傍ら開業した。当別荘地として開発された鵠沼海岸の地は結核療養者が多く、岸田劉生、芥川龍之介、川端康成なども診療している。筆の立つ人で著作も多く、鵠沼を語る会会員（HPあり）で1991年96歳で亡くなっている。富士山について、もっと知りたい方はHP「鵠沼を語る会」（渡部瞭）をご覧ください。富士さんの診療所は、現在、南保健所があった所にあり、その後、藤沢市に寄附され南保健所が建設された由である。（鵠沼在住弥勒寺さんの情報）



高松貞夫は鵠沼の旧家で法印様（最高の僧位）と呼ばれた家柄、古くから鵠沼一の大地主、父良夫は鵠沼村長、初代藤沢町長を勤めた。

長男の貞夫は明治18年生まれ、愛知医専卒、大正2年に鵠沼に高松内科医院を開業。震災後、隣地に病院を建設、大正14年鵠沼海岸に併設した分院と合わせて高松医院となった。高松は地域住民の医療に尽くすかたわら市政にも一生を捧げた。

昭和38年没

写真は鵠沼（中東）にあった高松医院。（藤沢医史より）、内科一般診療、レントゲン診療、一般入院治療のほか隔離病室施設もあった。 完

参考・引用文献：「藤沢医史」藤沢市医師会「藤沢医史」編纂委員会 発行：藤沢市医師会

「湘南の誕生」藤沢市教育委員会 HP「鵠沼を語る会」（渡部瞭）